

大自在

夢は五輪代表。スポーツ選手なら一度は胸に秘める思いだろう。それが8度目の出場を数え、夏冬合わせた出場回数は日本勢単独最多とは恐れ入る。スキー・ジャンプの「レジェンド（伝説）」葛西紀明選手

(45)が平昌冬季五輪で日本選手団の旗手を務める▼先日、ワールドカップ(W杯)が開かれたオーストリアでは、功績をたたえる異例のパーティーまで開かれたそうだ。

「最も偉大なヒーロー」。各国トップ選手の賛辞は選手仲間からいかに慕われてきたか、の証しでもある▼初出場は1992年のアルペルビル(フランス)。フィギュアスケートで伊藤みどりさんが銀メダルに輝いた五輪だからもうずいぶん前になる▼なぜ長く、トップの力を維持できるのか。

「日々の努力と負けないという気持ち」。前回ソチ(ロシア)の時、振り返った。「才能は長い努力の賜である」。そんな名言が頭に浮かんだ▼思い出すのは優勝メンバーから外れて泣いたという98年の長野大会である。「自分だけ金メダルを持っていないことが許せない」。同じ北海道出身のライバルたちが立った表彰台の真ん中の上がるため飛び続ける。原動力になったのかもれない。平昌こそ、真ん中に立つ姿を見たい▼見渡せば葛西選手に限らず、多くの競技で選手寿命は延びているのではないか。

2月に51歳になるカズこと三浦知良選手はJ2横浜FCと契約を更新、プロ33年目を迎える。米大リーグのイチロー(外野手)も、日本球界復帰の可能性があるらしい。レジェンドの英姿が見られるのは幸せだ。

2018.1.19

2018年1月19日 朝刊

①葛西紀明選手が、「レジェンド」と呼ばれるのは、どうしてでしょうか。

②葛西選手が長くトップの力を維持できる理由を2つ書きましょう。

③「才能は長い努力の賜である」とは、何が大切と言っているのでしょうか。

年 組 名前

(小学校高学年・中学校・高校 道徳)